

ものの集まりや数詞と対応して数字が分かることの指導 ～お店屋さんごっこ遊びの事例～			
学部・教科	小学部・算数科	事例コード	2217
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> 小学部3学年（重複障がい学級・2名） カレンダーや掲示物の数字を指差したり、10以下の数を読んだりすることがある。 「いっぱい」「無い。」と言うことや、具体物を数えようとすることがある。 		
単元(題材)名	『おみせやさんごっこをしよう』		
学習指導要領の内容	算数科／小学部2段階 A数と計算 ア 10までの数の数え方や表し方、構成に関わる数学的活動 (ア) ㊶㊷㊸、(イ) ㊹		
単元(題材)の目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	<p>ものの集まりと対応して数詞が分かる。【ア(ア)㊶】</p> <p>ものの集まりや数詞と対応して数字が分かる。【Aア(ア)㊷】</p> <p>個数を正しく数えたり書き表したりすることができる。【Aア(ア)㊸】</p>	<p>数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすことができる。【Aア(イ)㊹】</p>	<p>数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとする。【小学部2段階A目標ウ】</p>
単元(題材)の計画	<ol style="list-style-type: none"> みんなに配ろう(同じ数だけ具体物を配る) おつかいをしよう(教師が伝えた数だけ具体物を選ぶ) どちらが食いしん坊(具体物のどちらが多いかを考える) 		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> 動物や食べ物など児童が興味をもちやすい題材を設定し、主体的に取り組むように、消しゴム等の具体物を教材として活用しながら学習を進めた。 おつかいカードを使い、それぞれの動物に具体物を選ぶようにする。選んだ後に教師と具体物を数えて答え合わせを行った。 繰り返し取り組んできた結果、3までの具体物は教師の支援が無くとも正しく選び、「〇こ。」など、数を教師に伝えることができるようになってきた。 また、答えを間違えたときに消しゴムを指差しながら正しく数え直そうとするなど、諦めずに課題に取り組むことができるようになった。 5以上の数も少しずつであるが正解することも増えてきて、児童も自信をもって数を数える様子も見られるようになった。 		



お店屋さんの絵と消しゴム



おつかいカード